

# 中山道

長野県立歴史館 小野和英先生

実施日：令和3年4月20日（火）



第1回目は、長野県立歴史館から小野和英先生を講師に招き、「絵師の目から見た中山道」についてお話いただいた。長野にも多くの宿場や街道があり、絵師が描いた絵をもとに、当時の人々の生き様や風俗を紐解いていった。授業の後半は、中山道を舞台に描かれた色鮮やかな浮世絵を見せていただいた。絵に描かれている複数の情報・事柄を組み合わせることによって、当時の様子が想像できることのおもしろさを発見できた。服装や持ち物によって、描かれている人物の身分や季節までも想像することができ、絵師の緻密で粋な仕事ぶりに驚かされた。

### 【生徒の授業日誌より】

・日本橋から京都三条大橋までをつなぐ中山道には26の信濃の宿場がある。立科町の芦田はとても歴史のある地域だということがわかり、おもしろいと思った。絵師の溪斎英泉や歌川広重が中山道に関係しており、その歴史を今話してくださる方がいると考えるとすごいと感じた。絵を見ると文字だけではわからない情報が知れるのでおもしろい。

・中山道のことは名前しか知りませんでした。今回の授業でいろいろ知ることができました。カメラもない時代に絵だけで何かを表さないといけなかったから、昔の人はすごいなあと思いました。中山道を作ったのもすごいなあと思いました。

・昔の面影が少ないので、昔の宿場を見たいと思いました。写真で見るより自分の目で見たほうが古さがわかると思いました。馬にもわらじを履かせているのがとてもおもしろいと思いました。たくさん絵を見て、明るさを変えているところがすごいと思いました。すごく時間をかけて描いているなと思いました。

・絵師の目から中山道を見る、というテーマだったが、江戸時代の刀事情のところでも町人も百姓も身分表象として脇差を持っていたことにびっくりした。浮世絵から木曾街道六十九次を見て、実際の生活や街並みなどをより想像できた。溪斎英泉や歌川広重の板元は、絵の中に名前を入れていた。立科も通っている中山道の歴史をたくさん知ることができておもしろい授業でした。